

【事例12】 工賃向上に向けた取組

施設名	くれよん工房（水戸市元吉田町）		
設置者	（社福）くれよん		
定員	54名		
利用者数	58名		
平均月額工賃の推移 （ ）は旧計算式	R3：30,086円	R4：35,005円	R5：35,062円 (31,855円)
主な作業内容	菓子・雑貨の製造販売、カフェ運営		

工賃向上に向けたアドバイス

■ 施設の運営は「企業経営」と同じ

- ・『障害者施設だから』というレッテルは貼られたくない
- ・一事業者として「売れる商品」を製作。相手（客）がどんな商品を求めているのか把握することが必要
- ・収益分岐や売上額等のデータに基づいた経営を行っている

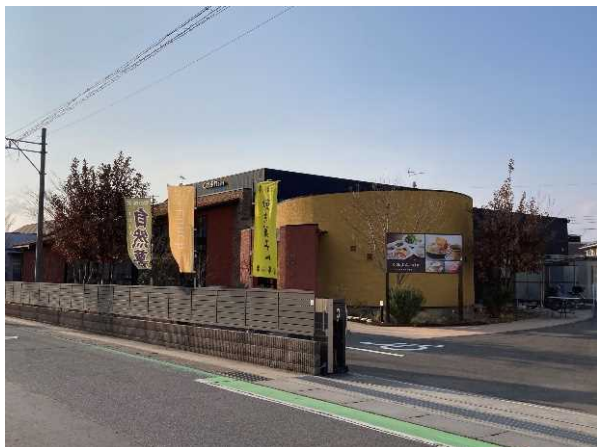
■ 職員の役割は「売れる商品の開発をする」こと

- ・売れる商品の開発を第一に考える
- ・一見難しい作業でも工程を細分化することで、利用者の特異な分野を活かしてクオリティの高い商品ができ、工賃向上につながる

その他

- ・設立当初は商品開発・販売のノウハウなく、数多くの失敗も経験⇒職員・利用者全員で課題を共有し、改善につなげた
- ・地元企業を中心に「足による」地道な営業活動を行い、徐々にクチコミにより知名度が向上
- ・原材料費だけではなく商品ロスの削減も必要。なお、商品ロスは「利用者だけではなく、職員も改善すべきこと」
- ・ある売場に出品した際、全く同じ条件で販売したにもかかわらず、他の商品よりも売上が低かったことが「売れる商品」づくりのきっかけ。施設全体で商品開発に取り組んだ。

施設外観



商品販売スペース



作業の様子（菓子製造）



作業の様子（一定の長さでリボンを切断）



作業の様子（雑貨類の製作）



**利用者が製作したデザイン
（包装紙として利用）**

